

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能のように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能のように原則として横7cm程度、縦7cm以下して下さい。
4. 原稿の送付先は当分の間「〒185-8511 東京都国分寺市戸倉1-15-1 農林水産省 動物医薬品検査所 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

「最近の若者は…」と題した最近の新聞記事にこう続く…。

古代ギリシャの哲学者、プラトンを引くまでもなく、いつの時代でも中高年になれば、自分たちとは価値観の違う礼儀知らずで無軌道な若者の生態を嘆いて一度は口をつく言葉だ。しかし、京大の松本紘総長は、先人たちはニュアンスの異なる嘆きを最近の若者に感じていた。小学生からあるいは幼児のころから東大や京大など有名大学への決められたレールを走ってきた若者には、湧き上がるような強い志が感じられないという。私は有名大学入学者に限らず、若手世代全体にいえることだと思う。

インターネット、携帯通信端末、デジタル化機器などの新たな消費喚起により経済成長と雇用をなんとか確保してきた。また、格差社会で低所得といわれている層も、充実した家電製品、情報機器を揃えられるし、高価な食物が買えないといっても、いまは安い食品も十分おいしい。こういう生活のベースこそを「空気のような」安くて安定した電力供給が支えてきた。このような社会背景が「礼儀知らずで無軌道な若者」をつくってきたように思う。これは社会の必然によるもので若者

に何の責任もない。いつの時代でもそうなのだ。そんな最中の震災と原発事故。それでも韓国をはじめとするアジア各国や欧米各国と違い、日本人は努めて「平常心」でいる。私は日本人が「政府は国民を守ってなんぼ」、政府を信じ込みすぎているかと思う。「国民を守る政府なのだから信じている」という考えが日本社会を支配していると思う。この点については特に若手世代の考えを聞きたい。

とりあえず洪水も治まったタイでの話。この国は日本より遥かに格差社会なのだ。富は富ある者の元に集まり、貧者は、「学歴」を持たない限り、その状況から抜け出すことが難しい。ましてや障害者は、歌うか物乞いになるしか生きる手段がないという。そんな社会でも人々は、[東に病気の子供がいれば、誰かバイクで町の病院まで連れて行ってあげたり、西に疲れた母がいれば、子供たちが籠を代わりに背負ってあげたり、南に死にそうな人がいれば、「大丈夫、みんないつかは死ぬんだから怖がらなくてもいいよ」と声を掛け、北に喧嘩をしている人がいれば、一緒になって喧嘩して、また仲直りして、そんな生活を送っている。]らしい。

東日本大震災と原発事故、TPP 関連。社会の必然は大きく変化せざるをえず、更なる様々な逆境に立ち向かうことになったが、若者に限らず全ての世代が「空気」のようなものを真剣に見つめ直す良い機会ともいえる。いろいろな考えが出てくるはずだ。全ての若者が礼儀正しく、常識的であったら気持ち悪い。少しくらいへそまがりがあるような社会のほうがおもしろい健全だと思う。

「順境で喜ぶな、逆境で嘆くな」を座右の銘とした私の最後の編集後記として、「浅井」氏にパトタッチです。(小林)

「All about SWINE」

第40号

2012年2月発行 定価1,500円

発行者 井上 忠 恕

編集者 小林 秀 樹

発行所 日本 S P F 豚 研 究 会

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県那須塩原市青木 919

Tel : 0287 (64) 3652

Fax : 0287 (63) 8384